

長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者 村上充彦

年月日 平日＝2009年7月09日（木・晴）
休日＝2009年7月26日（日・快晴）

回数 2008期＝第14回平日巡礼
2009期・第3回平日巡礼＝22名
2009期・第3回休日巡礼＝28名（現地参加2名）

巡礼寺・順 ●八番札所 益山寺（ましやまでら）

- * 本尊・千手観世音
- * 山号・養加山
- * 真言宗（京都清水寺・末）
- * 草創・弘法大師、期不明
- * 約千体の石仏像が有ります

書によると「僧空海ノ草創ニシテ本尊・千手観音ハ其自作ナリ」すなわち弘法大師の開創であり本尊の千手観音は大師の制作である、と言われてますが真偽は不明。

右に採石場を見ながら ただただ登るのみ 途中には西国三十三観音の 石像が点在し最後の観音様がこの寺の 観音様です。

樹齢？百年といわれる大銀杏（おおいちょう）と大楓（おおかえで）紅葉の時は最高です。

●九番札所 澄楽寺（ちょうらくじ）

- * 本尊・不動明王
- * 山号・引撰山
- * 真言宗（高野山金剛峰寺 末）
- * 草創・791（延暦十年）
- * 弘法大師・開創

豆州志稿に「延暦十年僧空海創建す」とあります、この年には弘法大師はまだ出家していないが修禅寺・奥の院で修業中、出家前であったが何かの縁で開創されたと考えられる。

●十番札所 蔵春院

- * 本尊・釈迦牟尼仏（しゃかむにぶつ）
- * 山号・長谷山
- * 宗派・曹洞宗
- * 草創・1439（永享十一年）
- * 杉木立の中、参道を登って行くと両側に西国三十三観音がお出迎え、お参りしながら山門を通り抜けると
正面に仁王像を両側にした鐘楼山門、その先に本堂が見えてきます、その威容に戸惑いを感じます
本堂の右には長谷観音堂、どの建物も、1977（昭和52年）以後に建築されました。
仁王像及び長谷観音堂も有ります

●十一番札所 長源寺（ちょうげんじ）

- * 本尊・釈迦如来
- * 山号・天与山
- * 宗派・曹洞宗（修禅寺・末）
- * 草創・不明
- * 烏菟沙摩（うずさま）明王を祭祀
- * 祭祀されている烏菟沙摩（うずさま）明王とは「トイレの神様」です。
田方平野（伊豆で唯一の平野）を一望に見渡す高台にあります。ここから田方平野越しに見る富士山の眺めは素晴らしいです。

●十二番札所 長温寺（ちょうおんじ）

- * 本尊・薬師如来
- * 山号・薬王山
- * 宗派・曹洞宗（真珠院・末）
- * 草創・1562（永禄五年）
- * 仏様の足紋石像が有ります
- * 開創以前の1167（仁安二年）この地の武将、古奈治郎義光が討死、守護仏であった。
「薬師如来」をここに祭祀した、後に寺として開創した。その後衰微したが、1620（元和六年）再興、その後1828（文政十一年）火災による類焼で再度衰微

したが、真珠院三十世により再興されました。

●十三番札所 北條寺（ほうじょうじ）

- * 本尊・観世音菩薩
- * 山号・巨徳山
- * 宗派・臨濟宗（建長寺・末）
- * 草創・1177-83（治承年間）
- * 阿弥陀如来は運慶作で重要文化財。本尊・観世音菩薩は静岡県指定の文化財。
草創当時は観音堂があって、そこを満徳山北條寺と改め寺領を下付された
1200（正治、建仁年間）北條義時が仏殿の本尊・阿弥陀如来を運慶に作らせて北條寺を創建した。
1499（明応九年）鎌倉・建長寺により開山、以来、臨濟宗の寺となる、その後幾多の災害を受け再建を繰り返した、現在の本堂は1978（昭和53年）築です。
- * 開基である北條義時夫妻（源頼朝の妻、政子の弟）の墓が境内の高台にあります。
- * 伊豆の遍路が江戸時代から行われていた事を現す木製額があります。

距離	7.5 Km + 3 Km + 5.5 Km + 3 Km + 2 Km = 約 21 Km
タイム	下土狩 5:30 - 益山寺入口 6:45 - 益山寺 7:00 ~ 7:30 - 澄楽寺 9:05 ~ 9:25 - 蔵春院 10:00 ~ 10:30 - 長源寺 11:35 ~ 13:00 - 長温寺 13:40 ~ 14:00 - 北條寺 14:30 ~ 15:20 - 「光林」 15:30 ~ 17:00（平日）
温泉	09日 = 伊豆長岡「光林」700 -（団体割引で650 -） 26日 = 伊豆長岡「めおとの湯」500 -
経費	長源寺 = 1000 -、北條寺 = 2000 -
参考資料	「伊豆霊場振興会」HP

今年は梅雨明けが極端に遅い。今日も朝から鈍よりした曇り空。いつ降りだしてもよさそうな空模様をうらめしそうに見上げながらバスを待つ。

定刻より少し遅れてバスが到着し、早々に乗り込んだところ運転手さんから「おはようございます」の挨拶。あれ～、先週霧が峰に行った時の運転手さんでした。とっても腰の低い、感じの良い運転手さんです。

6:45、前回終着地の八幡札所益山寺入口に到着。今日一日の始まり始まりで～す。長泉町わくわく塾は、全行程を自分の足で走破することをコンセプトにしていますが、勿論無理は禁物です。

さて、気を引締め直して、6:55 益山寺への滑りやすい坂道を歩き始めました。25 分程で益山寺に着きましたが、銀杏と楓の大木が、私達を出向かえてくれました。

ご住職の出勤(?)は9時のようで、本堂は閉まっていたましたが、本堂の前で本日一回目のお経を唱えました。



益山寺

トイレ休憩後、九幡札所澄楽寺へ向けて出発進行です(7:35)。

この頃から雲の合間から日射しが注ぐようになり蒸暑くなってきたが、沿道にはヤマユリが咲いていて目を楽しませてくれます。そうこうしているうちに最後尾が見えなくなったので、サポータの小坂さんと携帯で連絡をとり、バスで移動するように後藤講師が指示していました。

※集団行動の難しさが垣間見えた場面でした。

9:10 狩野川沿いの神島集会センター(後方に大仁ホテルが見える)で一服し、9:40 澄楽寺に到着(益山寺から約2時間)。ここのお寺は、高野山・金剛峰寺の

梅雨空の下、狩野川を行く



末寺。住職奥様に先日の高野山巡礼の様話を話したら、喜んでいただきました。また、写真にもありますが、ここの本堂屋根には、梵鐘がある変わった建築でした。



澄楽院とご本尊

10:00、十番札所蔵春院に向けて歩き出す。

サポータ天野さんは沿道の瓢箪、りんご、かりんなどを目聡く見つけて教えてくれますので、歩いていても楽しいですね。40分で蔵春院に到着。ここのお寺も立派なお寺。

山門から苔むした階段を辿ると、左右に西国三十三観音像が出迎えてくれる。更に上りと、今度は左右に仁王像が阿吽の姿で睨みを利かせていた。





住職の奥様
山田久美子さま
会員のご親戚だそうです



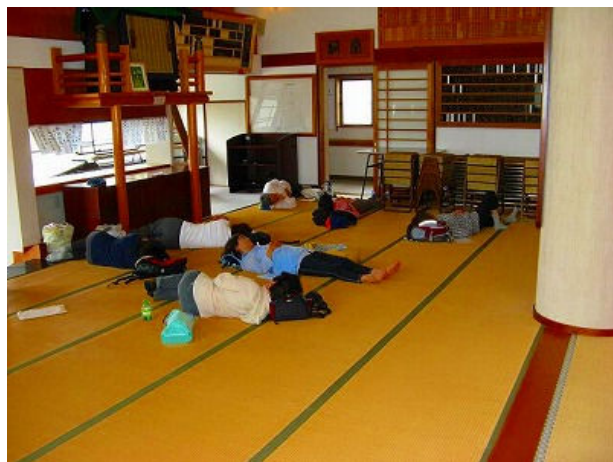
お勤め終了後、龍神水で喉を潤し、本日最大の難所(大袈裟?)十一番札所長源寺に向けての峠越えが待ち受けている。各自が体調を考慮して徒歩にするかバスで移動するか思案の分れ目でしたが、丁度半々でした。

さ〜！気合を入れ直して 11:00 出発しましたが、峠の登りに差掛かると流石に隊列が延びきってしまったので峠で小休止を取り、長源寺に向けて下って行きました。12:15 長源寺に到着。早々にお勤めを済ませて、ようやく昼食です。本堂内は広々していて案外涼しく、食後は思い思いに時間を過ごしましたが、お寺の奥さんが天井に書かれている花の絵について話をしてくれました。

カタカナで「ホトケ」と花の絵で表しているようですが、「ト」は分りましたがそれ以外の2文字が分かりません。話をしてくれた奥さんも分らずじまいで、勉強しておきますとのことでした。トホホ...

そろそろ出発の時間になりました。当初はここで(長源寺)集合写真をとる予定でしたが、強い日差しと逆光のため北條寺で撮ることに変更になりました。

それ程に梅雨明けを思わせるような夏空になっていました。



涼しい本堂でお昼寝

先代住職逝去を伝える
山門不幸



奥様が何となく何か言いたげな雰囲気だったので、それとなく最近の状況を伺ったら、2007年巡礼時、お世話になった先代住職は、この3月亡くなり今は息子さんが寺を跡を継いでいるとのことでした。

帰りに山門を仰ぐと「山門不幸」のお知らせ。3月4日、示寂（じじゃく）＝高僧などが亡くなること、が掲げてありました。合掌

13:30 十二番札所長温寺に向けて出発。

狩野川には10艇程のカヌーが涼しそうにスイスイと泳いでいましたが、カヌー体験教室のようです。

14:10、長温寺に到着です。本堂内は蒸し風呂のような暑さで汗が滴り落ちるような状態でしたが、麦茶のサービスがあり救われた気持ちになりました。

14:25、本日最後の目的地十三番札所北條寺に向けて出発、14:50 北條寺に到着。渡辺住職が、私達と一緒に般若心経を唱えて下さいました。有難うございます。その後、住職から「北條寺と巡礼の歴史」についての有難いお話を頂きましたが、住職の話しに聞入ってしまってメモを残す事ができませんでしたので、後日記憶を頼りにインターネットで調べた事を最後に書き添えておきます。

15:30、本堂の前で集合写真を撮り、本日の修行が無事に終わりました。

その後近くの温泉「めおとの湯」で、疲れた体を労わり、渴ききった喉を生ビールで潤したお陰で、今日一日の疲れも吹飛んでしまいました。

17:30 本日の全行程が終了し、一路帰路につく。ご苦労様でした。合掌

以上

補足：[北條寺と巡礼の歴史]

ご住職の話によると、このあたりは鎌倉北条氏2代目の義時が若き日に屋敷を構えたところという。義時の父時政の屋敷は願成就院の近くで、現在では狩野川を隔て対岸であるが、当時の川はもっと東を流れていたため、2つの屋敷は近かったようです。大蛇に飲まれて命を落とした我が子を弔うために義時が建立したのがこの北條寺であると伝えるが、実際には南北朝期の創建らしい。かつては宝城寺と称した。

戦国時代には後北条氏によって保護されたが、秀吉によって焼かれ、その後、江戸時代に再建されるも、火事や台風によって古い建物は残っていない。

しかし江戸時代の絵馬が多く残り、かつては盛んに巡礼されていたらしい。

- ・ 伊豆中道三十三観音 常林寺～修禅寺の十六番札所
- ・ 駿河・伊豆両国横道巡礼 常林寺～靈山寺の八番札所
- ・ 伊豆八十八ヶ所霊場 嶺松院～修禅寺の十三番札所

伊豆八十八ヶ所巡礼は、今から800年前頃からだと思われませんが、定かではありません。確実なのは約120年前の明治22年の銘がある六番札所金剛寺の版木、二十八番札所大江院の納経帳、番外札所(豆国八番) 称念寺の御詠歌道中記です。

これを基に判断すると120年以上も前から、また二十一番札所龍沢寺の参道の途中にある巡拝記念の石碑に天保15年の年号が刻まれています。それによると約百七十年以前から巡礼が行われ、北條寺には文化12年(190年以前)年号の遍路絵馬額が有りますが、何処の遍路か不明です。

もしこれが伊豆八十八ヶ所ならば、百九十年以前から伊豆の遍路「伊豆八十八ヶ所霊場」が行われていた事になります。

最後に八十八(88)という数の意味は、
厄年にあたる男性(四十二)、女性(三十三)と子供(十三)の数字を合計した数のことであるということを教えて頂きましたが、厄年の合計数以外にも下記のような説もあるようです。

- ・ 人間の持つ煩惱の数
- ・ 八十八の煩惱を消滅させて、八十八の功德を成就する
- ・ ありがたい「コメ」から、漢字の「米」という字を分解して、それを八十八にしたもの



平日巡礼 長源寺

休日巡礼 北條寺・渡辺住職を囲んで

